

# 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1991年度

1992年3月

柏原市教育委員会

## 序 文

柏原市が国からの補助を受けて、主として個人住宅建設に先立つ緊急発掘調査を実施するようになり十余年が経ちました。市民の皆さんに遺跡の存在を知って頂くだけでなく、調査の実施の意味もご理解頂けるようになりました。また遺跡の広がりや深さ、遺存状況等、地下の状況もようやくわかりつつあるため、開発の事前計画に遺跡の保存を徐々に反映できるようになってきました。

今年度は国庫補助事業による調査の中では特に目を引くものはありませんでした。しかし貴重な発見の有無でその調査の成否が問われるものではなく、遺構、遺物が認められなかったものも遺跡の範囲や深度を知るうえで大きな一つの成果になるものと考えます。

さらなるご理解とご協力を賜らんことをお願い致します。

1992年3月

柏原市教育委員会

教育長 庵刀和秀

## 例　　言

1. 本書は柏原市教育委員会が平成3年度に国庫補助事業（総額1,320,000円、国補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として計画し、社会教育課文化係が実施した、柏原市内遺跡群緊急発掘調査概要報告書である。
2. 調査は柏原市教育委員会社会教育課 北野 重、安村俊史、石田成年を担当者とし、平成3年4月1日に着手し、平成4年3月31日に終了した。
3. 本書には、文化財保護法第57条の2に基づく届け出があった150件のうち、平成3年1月1日から同年12月31日までに着手した、土木工事等に伴う事前発掘調査の概要を記載している。
4. 調査及び報告書作成に際し、次記の諸氏の参加、協力があった。（順不同・敬称略）

|       |       |       |       |       |
|-------|-------|-------|-------|-------|
| 藤田昌宏  | 空山 茂  | 竹下 賢  | 山田寛顯  | 桑野一幸  |
| 寺川 欽  | 生駒美洋子 | 谷口京子  | 奥野 清  | 谷口鉄治  |
| 南本正一  | 麻 栄三郎 | 福田宗一  | 福田常治郎 | 東野覚次  |
| 西島伸彦  | 山口 刚  | 大学康宏  | 椋本徹夫  | 頃安敏雄  |
| 津田美智子 | 阪口文子  | 尾野知永子 | 乃一敏恵  | 多田一美  |
|       |       |       |       | 有江マスミ |

5. 本書図中の方位は磁北、標高はT.P.で表示した。
6. 調査に際し、写真、実測図を記録として残すと共にカラースライドを作成した。また出土遺物は写真、実測図と共に歴史資料館にて保管している。

## 目　　次

|                     |    |
|---------------------|----|
| 序 文                 |    |
| 例　　言                |    |
| 目　　次                |    |
| 1991年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧 |    |
| 1991年度柏原市内遺跡群立会調査一覧 |    |
| 第1章 平野遺跡            | 2  |
| 第2章 大県遺跡            | 4  |
| 第3章 平尾山古墳群          | 6  |
| 第4章 玉手山遺跡           | 9  |
| 第5章 田辺遺跡            | 11 |
| 図 版                 |    |

## 1991年度柏原市内遺跡群発掘調査一覧

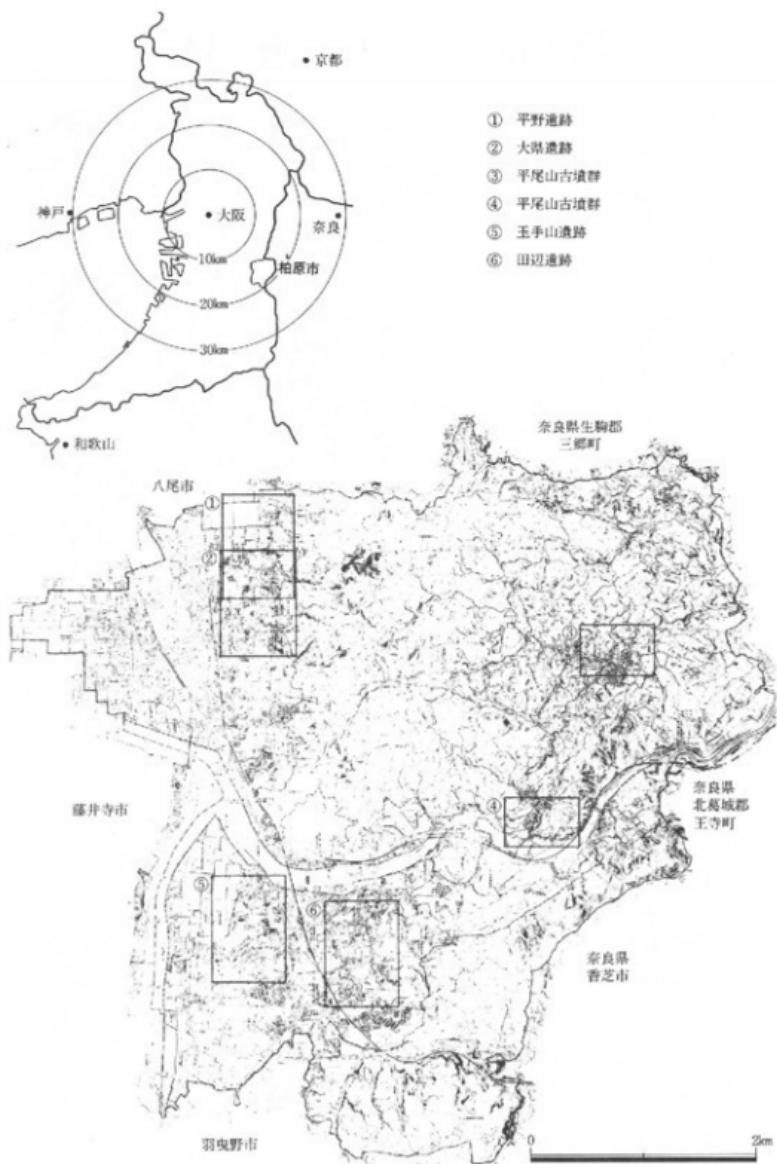
| 調査名     | 対象地           | 面積m <sup>2</sup> | 申請者   | 用途     | 担当 | 調査期間      | 備考      |
|---------|---------------|------------------|-------|--------|----|-----------|---------|
| 玉手山91-1 | 片山町14-107     | 158.89           | 清川武次郎 | 個人住宅建設 | 安村 | 1.28      | 柏教文1-4  |
| 平尾山91-2 | 青谷2193, 2194  | 257.91           | 山口繁雄  | 個人住宅建設 | 北野 | 1.30~1.31 | 柏教文1-82 |
| 平尾山91-4 | 雁多尾畠1475      | 566.48           | 高津幸男  | 個人住宅建設 | 安村 | 3.4       | 柏教文1-9  |
| 大堀91-1  | 平野161         | 156.46           | 山荘一成  | 個人住宅建設 | 石田 | 5.7~5.10  | 柏教文1-77 |
| 田辺91-2  | 田辺1-2093-2    | 171.12           | 岡崎正行  | 個人住宅建設 | 石田 | 5.24      | 柏教文1-51 |
| 田辺91-3  | 田辺1-1322-5    | 116.88           | 駒 謙三郎 | 個人住宅建設 | 安村 | 5.28      | 柏教文1-16 |
| 平野91-2  | 山ノ井町561-5     | 207.15           | 山本啓二  | 個人住宅建設 | 石田 | 7.18      | 柏教文1-31 |
| 田辺91-6  | 国分本町5-1522-3  | 131.65           | 金子智彦  | 個人住宅建設 | 北野 | 8.5       | 柏教文1-34 |
| 玉手山91-2 | 玉手町280-2      | 163.94           | 吉崎隆夫  | 個人住宅建設 | 石田 | 9.9       | 柏教文1-40 |
| 田辺91-7  | 国分本町7-1965-1  | 169.53           | 青山勝彦  | 個人住宅建設 | 石田 | 9.17      | 柏教文1-44 |
| 田辺91-8  | 国分本町5-1520-1他 | 126.77           | 杉本隆司  | 個人住宅建設 | 安村 | 12.2      | 柏教文1-55 |

(但し1991年1月1日から12月31日に着手したもの)

## 1991年度柏原市内遺跡群立会調査一覧

| 遺跡名  | 対象地          | 面積m <sup>2</sup> | 申請者   | 用途      | 担当 | 調査期間  | 備考      |
|------|--------------|------------------|-------|---------|----|-------|---------|
| 田辺   | 旭ヶ丘3-1164-22 | 83.17            | 金子憲一  | 個人住宅建設  | 石田 | 6.10  | 柏教文3-8  |
| 玉手山  | 旭ヶ丘1-390-32  | 309.14           | 波江野善昭 | 個人住宅建設  | 石田 | 7.17  | 柏教文3-5  |
| 船橋   | 大正2-250-16   | 80.78            | 田中良和  | 個人住宅建設  | 北野 | 9.9   | 柏教文3-14 |
| 片山廢寺 | 片山町10-11     |                  | 関西電力  | 電柱撤去・設置 | 北野 | 9.13  | 柏教文3-7  |
| 安堂   | 太平寺1-144-19  | 147.59           | 小西啓三  | 個人住宅建設  | 石田 | 11.12 | 柏教文3-19 |
| 大槻南  | 大槻3-510-1    | 943.10           | 真野繁造  | 共同住宅建設  | 石田 | 12.11 | 柏教文3-4  |
| 大槻   | 平野2-151-1他   |                  | 竹中喜清  | 個人住宅建設  | 石田 | 12.19 | 柏教文3-22 |

(但し1991年1月1日から12月31日に着手したもの)



第1図 柏原市位置図

第1章 平野遺跡



第2図 調査対象地位置図(1/5000)

## 91-2次調査

- ・調査対象地 柏原市山ノ井町561-5
- ・調査期間 1991年7月18日
- ・調査面積 4m<sup>2</sup>/207.15m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 石田

調査対象地の東辺に2m四方の調査区を設定し、すべて人力により最深で現地表下200cmまで掘削した。

現地表下100cmまで盛土で、以下は旧表土、耕土、床土であった。遺構、遺物とも認められなかった。



第3図 調査区位置図

## 第2章 大 県 遺 跡



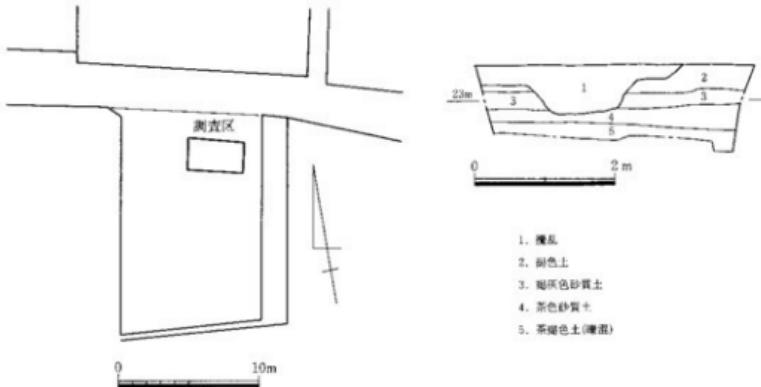
第4図 調査対象地位置図 (1/5000)

## 91-1次調査

- ・調査対象地 柏原市平野161
- ・調査期間 1991年5月7日～5月10日
- ・調査面積 8m<sup>2</sup>/156.46m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 石田

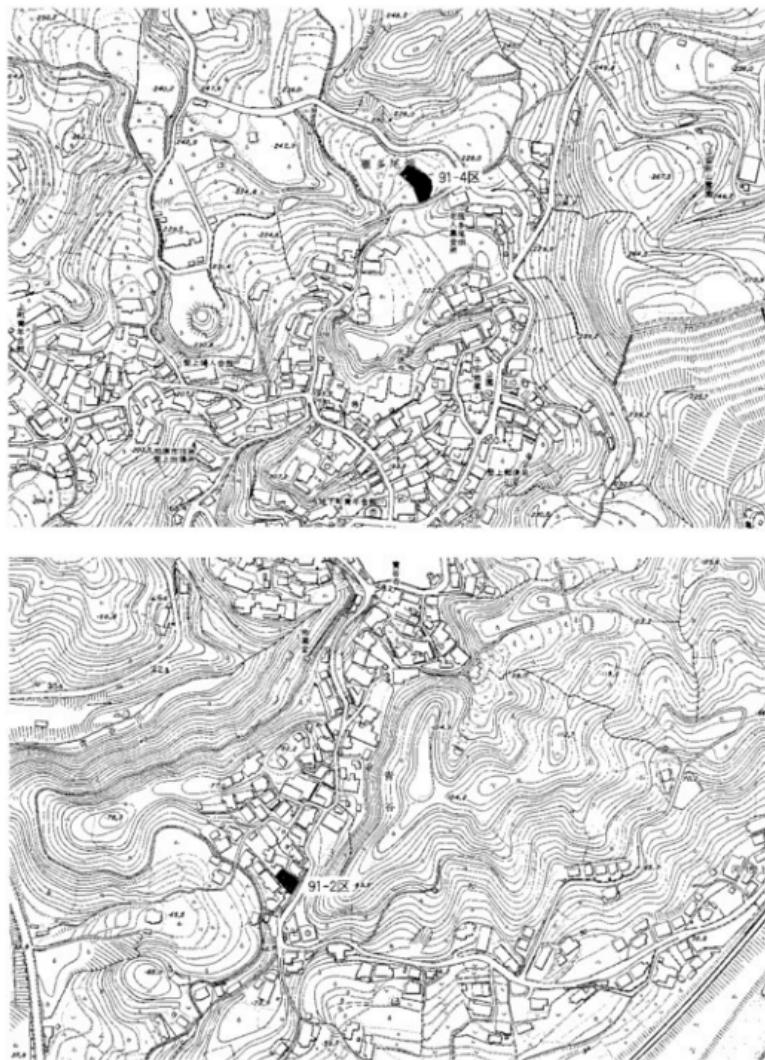
調査対象地の北辺に東西4m、南北2mの調査区を設定し、すべて人力により掘削した。建物の基礎深度が浅いことから、現地表下100cmまでの掘削とした。

現地表下60cmまでの褐色土、褐色砂質土層は近現代から縄文までの遺物が混在する遺物包含層である。最下層は人頭大の花崗岩礫を多量に含む茶褐色土層である。地山となる可能性がある。茶色砂質土層以下からは、遺物の出土は認められなかった。また各層上面において精査したが、遺構は認められなかった。



第5図 調査区位置図・南壁断面図

### 第3章 平尾山古墳群



第6図 調査対象地位置図 (1/5000)

## 91-2次調査

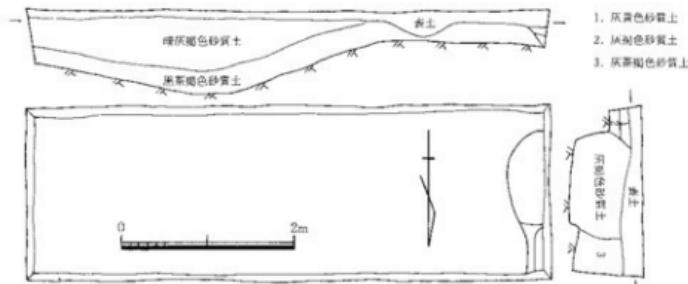
- ・調査対象地 柏原市青谷2193, 2194
- ・調査期間 1991年1月30日・1月31日
- ・調査面積 13m<sup>2</sup>/257.91m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 北野

当調査区は、平尾山古墳群の南端部に位置し、近接して古墳時代から歴史時代までの集落遺跡である鳥取千軒遺跡がある。調査の目的は、古墳の存在確認をするより鳥取千軒遺跡の拡がりを調べることが主眼であった。

調査地は、青谷集落の中心部にあたり道路の西側に接した平坦地である。ほぼ中央部に2ヶ所のトレンチを設定した。第1トレンチは、1×1mの規模で掘り下げたが、旧家屋の取り壊した土層を取り去れば直下に花崗岩が見られた。すべて自然石であった。

第2トレンチは、第1トレンチの西側に2×6mの規模の調査範囲を設定した。西側端部から径約0.5mの半円形をした土壤を検出した。出土遺物がなく時期は明確でないが、旧家屋又はそれ以前の住居に伴う土壤であろう。埋土は、灰褐色砂質土に5~10cm大の石を少し含んでいる。この土壤の南北方向に整地層があり、その上面から掘られている。

トレンチ東側に南北方向に伸びる大きな溝を検出した。溝の南側方向に谷筋が伸びており、その一番奥部にあたる場所かもしれない。溝の幅は、東側で検出していないが、第1トレンチでは検出してないので5m強と考えられる。埋土は2層からなっている。上層は、最も厚い場所で60cmを測る。下層は、黒茶褐色砂質土で20~30cmの厚さがある。この土層の上部に薄い炭層を確認した。この場所は、旧家屋の以前に畑が長い間耕されていて2又は3世代以前に大きな窯があったとの伝承がある。この窯は、出土遺物もなくどのような用途の窯か不明である。この窯が操業していた時にこの谷筋部に炭をかき出したものと考えられる。



第7図 トレンチ平面図・断面図

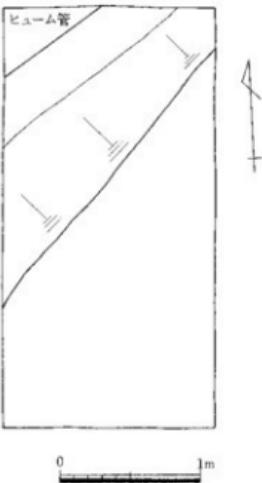
#### 91-4 次調査

- ・調査対象地 柏原市雁多尾畠1475
- ・調査期間 1991年3月4日
- ・調査面積  $4.5\text{m}^2/566.48\text{m}^2$
- ・調査担当者 安村

調査地は、過去に尾根斜面を削平し、下方に盛土することによって造成済みであった。そのため、最も旧地形が残っている可能性の高い、調査対象地の南東部に $1.5 \times 3\text{ m}$ のトレンチを設定し、調査を実施した。

調査の結果、地表下 $12\sim60\text{cm}$ で地山に至り、トレンチ北西部では $1\text{m}$ 前後の深さまで溝状に掘り込まれ、ヒューム管が埋設されていた。土層は、地山に至るまで現代の盛土一層のみであり、遺物・遺構は認められなかった。

木造住宅の建築に伴う調査であり、建物基礎深度が浅いため、トレンチの拡張せず、工事の着手を認めた。



第8図 平面図

## 第4章 玉手山遺跡



第9図 調査対象地位置図 (1/5000)

## 91-1 次調査

- ・調査対象地 柏原市片山町14-107
- ・調査期間 1991年1月28日
- ・調査面積 2 m<sup>2</sup>/158.89m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 安村

調査地は、玉手山丘陵北端近くの東斜面に位置し、西方丘陵の尾根上には玉手山1号墳が位置する。

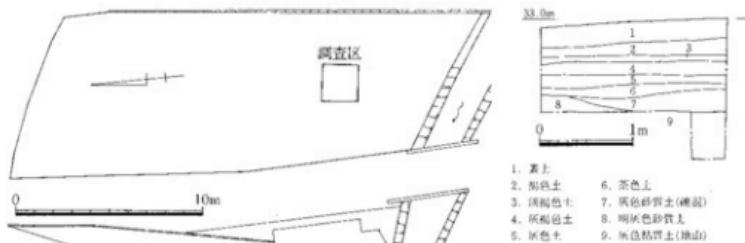
調査は、家屋増設に伴うものであり、施工業者によって基礎工事に伴う掘削の後、調査対象地南辺基礎部分のみ調査を実施した。

調査の結果、基礎深度である地表下40cmまでは全て現代の盛土であり、遺物・遺構は認められなかった。周辺では、これまでの調査によって、奈良時代の遺物・遺構が発見されており、丘陵北端に位置する片山廃寺に関連する集落が存在したと推定されている。しかし、今回の調査地付近は、過去の造成によってかなり地形が改変されており、遺構が残っている可能性は乏しいように思われる。

## 91-2 次調査

- ・調査対象地 柏原市玉手町280-2
- ・調査期間 1991年9月9日
- ・調査面積 4 m<sup>2</sup>/163.94m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 石田

対象地の南端に2m四方の調査区を設定、すべて人力により、現地表下100cmまで掘削した。各層上面において精査したが、遺構、遺物とも認められなかった。



第10図 調査区位置図

## 第5章 田辺遺跡

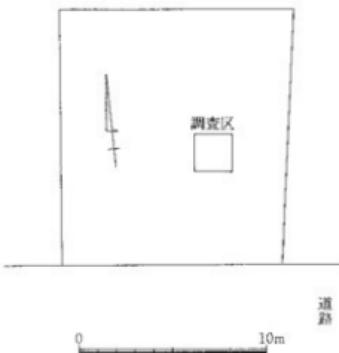


第12図 調査対象地位置図 (1/5000)

## 91-2次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1丁目2093-2
- ・調査期間 1991年5月24日
- ・調査面積 4m<sup>2</sup>/171.12m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 石田

対象地の中央東寄りに2m四方の調査区を設定。すべて人力により掘削した。表土、盛土直下は地山であった。遺構、遺物とも認められなかった。



第13図 調査区位置図

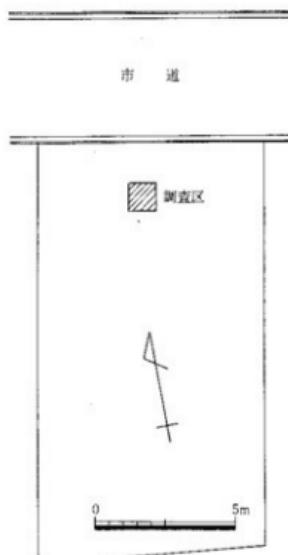
## 91-3次調査

- ・調査対象地 柏原市田辺1丁目1322-5
- ・調査期間 1991年5月28日
- ・調査面積 1m<sup>2</sup>/116.886m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 安村

調査地は、史跡田辺庵寺跡の北西部に位置し、史跡西端から25mに位置する。

調査は、浄化槽予定地に1m四方のトレンチを設定し、実施した。地表下30cmで黄白色粘土の地山に至り、上層は現代の盛土1層のみである。遺物・遺構は認められなかった。

田辺庵寺跡に近接するため、何らかの遺構の存在が予想される地ではあるが、一部で基礎工事に着手されていたため、調査範囲の拡張はできなかった。ただし、地山面のレベルは、史跡指定地より2m以上落ち込んでいる。



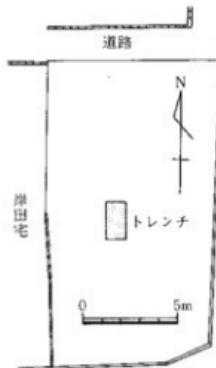
第14図 調査区位置図

## 91-6次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町5丁目1522-3
- ・調査期間 1991年8月5日
- ・調査面積 2m<sup>2</sup>/131.65m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 北野

当調査区は、田辺遺跡の北西部にあたり平坦な丘陵部の最も高い位置にある。直ぐ北側に奈良街道があり、東側に西法寺の境内が接している。近年、周辺部から古墳時代の鍛冶遺構や遺物、古墳に伴うと考えられる埴輪が出土し、奈良時代以降の掘立柱建物の検出例も見られる。

調査は、ほぼ中央部に1×2mのトレンチを設定した。旧家屋の基礎部分が取り壊されていたが、ほとんど攪乱されており削平が激しかった。トレンチの東側で新しいピットがあり、他の部分は、表土を約10cm掘り下げたところ黄褐色粘土及び黄褐色粘質土を確認した。遺構と遺物は確認されなかった。



第15図 調査区位置図

## 91-7次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町7丁目1965-1
- ・調査期間 1991年9月17日
- ・調査面積 6m<sup>2</sup>/169.53m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 石田

対象地の南西に調査区を設定し、すべて人力により、現地表下50cmまで掘削した。上層より、耕土、橙灰色粘質土、明茶灰色粘質土の順である。橙灰色粘質土に近現代の物と混在して、須恵器片が認められるが、細片のため図示できない。明茶灰色粘質土は地山である。調査区東南隅でそれを穿つ直径30cmのピット状遺構を検出したが、埋土が橙灰色粘質土であることから、時期は特定できない。



第16図 調査区位置図・東壁断面図

## 91-8次調査

- ・調査対象地 柏原市国分本町5丁目1520-1, -2の一部
- ・調査期間 1991年12月2日
- ・調査面積 1m<sup>2</sup>/126.77m<sup>2</sup>
- ・調査担当者 安村

調査地は、大和川南岸に位置する丘陵上に所在する。この丘陵は東方へのびて松岳山古墳群の位置する丘陵から芝山古墳群の位置する芝山へと続く。一方、南側は史跡田辺庵寺跡の位置する田辺丘陵へと連なっており、一連の丘陵の一部をなしている。調査地の標高は42mを測り、東側へ下る傾斜変換点に位置する。

調査は、1m四方のトレンチを設定し、実施した。その結果、地表下20cmで暗黄褐色粘質土の地山に至り、土層は現代の盛土1層のみであった。トレンチ北東部で、60cm以上の大さの落ち込みが確認されたが、現代の瓦等を含んでいたものであった。これ以外に遺物・遺構は認められなかった。一部で基礎工事に着手されていたため、トレンチの拡張を行なうことはできなかった。

調査地周辺では、これまでに古墳時代から奈良時代にかけての遺物が散見されており、飛鳥・奈良時代の堀立柱柱穴なども確認されている。また、南西500mに位置する国分小学校およびその周辺では飛鳥・奈良時代を中心とする鍛冶遺跡が確認されている。調査地のすぐ北側を、旧奈良街道が東西に走っており、現在も一部に古い街並みを残している。この奈良街道が、いつ頃まで廻るかという問題もあるが、それは別としても、丘陵上に位置し、奈良街道が存在することによって古くから小規模な削平などが繰り返されており、埋蔵文化財の残存状況は良好とは言えない。今回の調査地も、集落が存在可能な立地にあるが、かなりの削平を受けているようである。今後は、その間隙をぬって、古代の集落範囲を復元していかなければならない。

田辺遺跡は、東西1km、南北1.5kmの範囲と現在は想定している。しかし、史跡田辺庵寺跡周辺の集落と、今回の調査地周辺の集落を別個の集落と考えることも可能であり、今後の課題として残されている。



第17図 調査区位置図

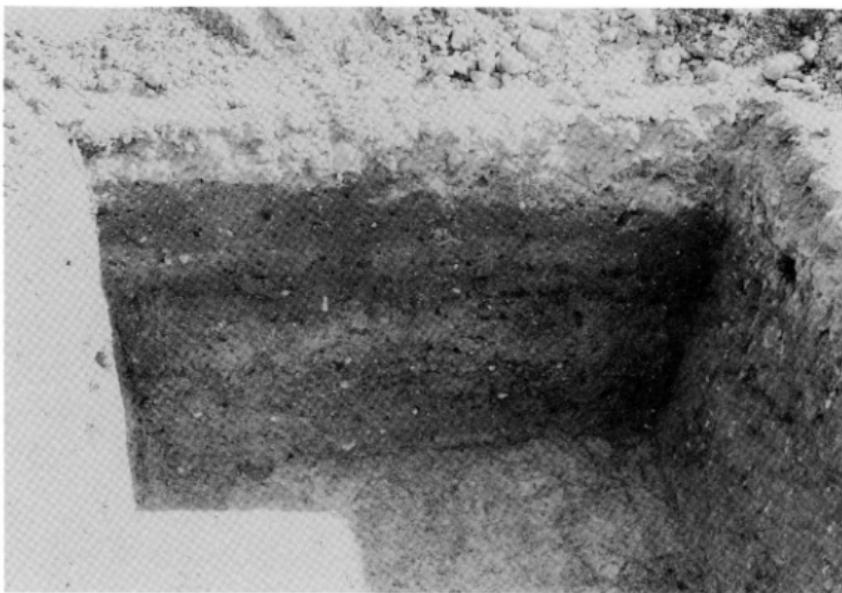
# 図 版



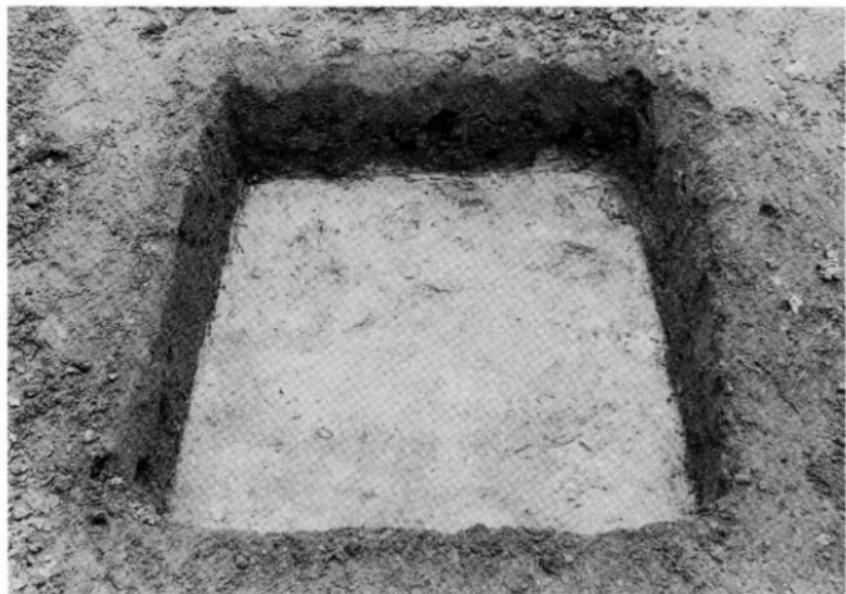






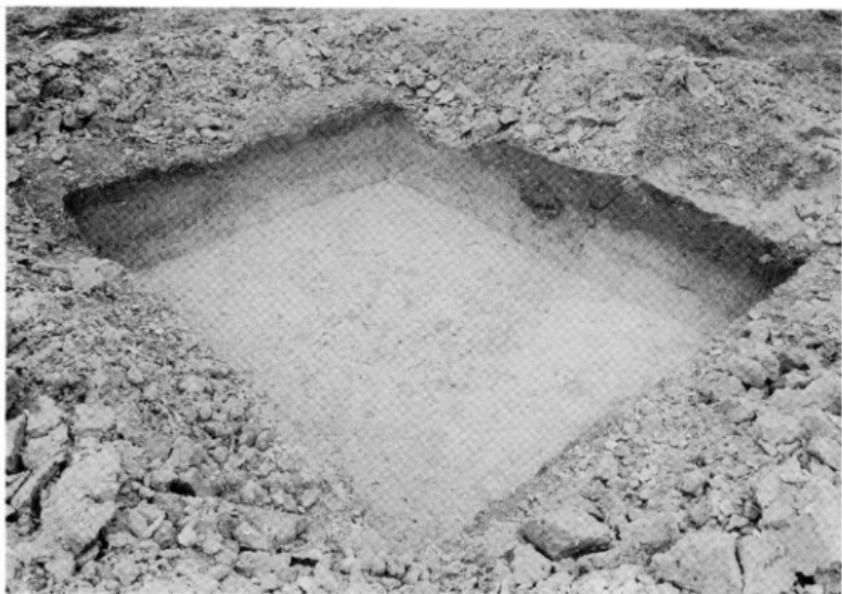
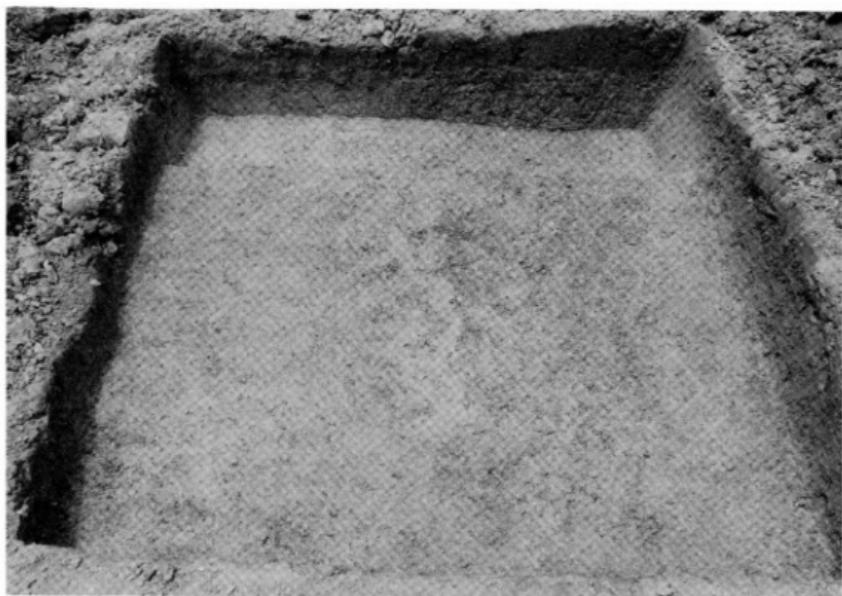


図版六（田辺91—3）

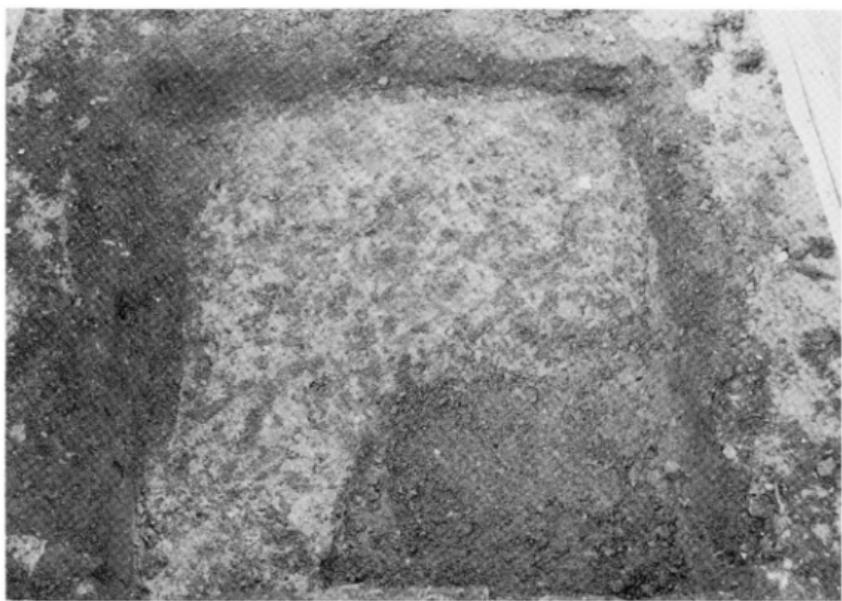




図版八（田辺91-7）



図版 九 (田辺 91-8)



## 柏原市埋蔵文化財発掘調査概報

1991年度

編集・発行 柏原市教育委員会

〒582大阪府柏原市安堂町1番43号

電話 (0729) 72-1501

発行年月日 平成4年3月31日

印 刷 株式会社 中島弘文堂印刷所

